

祖父と父が築いた練り込み陶芸の道を開く

# 水野智路の世界



左の3点が父・水野教雄さん、右の3点が智路さんの作品。教雄さん上の2作品は、鶺鴒(うずら)の羽模様を取り入れた「鶺鴒手」という伝統的な技法。下は「毘沙門亀甲模様」。縦横、斜めに編みこんだような柄。智路さんの一番人気であるパンダ柄は6~7年前に発表し幅広い年代に愛される。さまざまな変形した顔が愛らしい

いま、SNSで話題の作家がいる。瀬戸市東町で練り込み陶芸家として活躍する水野智路さんだ。父親で瀬戸市無形文化財保持者の教雄さんとともに、工房で作陶に励む。伝統的技法を用いて新たな作品を生み出し、世界へと発信する二人を訪ねた。

## 瀬戸の陶芸一家に生まれ親の背中を見て職とした父子

東町には、数々の窯が集まる。古瀬戸と呼ばれる歴史ある地域だ。自宅の1階に工房とギャラリーを構えるのが、水野教雄さんと智路さん。中国・唐時代に考案されたと伝わる、練り込み技法の作品を生み出してきた。

練り込みは、陶土に鉄やコバルトなどの酸化金属を混ぜて色土をつくる。それを切つて積み上げたり、張り合わせたりして模様を完成させる技法。染付と違い、裏側にも同じ模様が現れる。「昔は、『金太郎飴』のようだと言われていましたが、いまの世代には『飾り寿司』というところよく理解してもらえますね」と教雄さんがほほ笑んだ。

Profile  
水野智路さん  
TOMORO MIZUNO  
1985年生まれ、名古屋造形芸術大学卒業。2009年第11回「平成の招き猫100人展」参加を最初に作品展出展を重ねる。LEXUS NEW TAKUMI PROJECT2016選出  
instagram/tomoro.m  
Facebook/Tomoro Mizuno  
現在は、全国で開催する「水野智路作品展」でのみ購入可能  
情報はSNSにて発信中



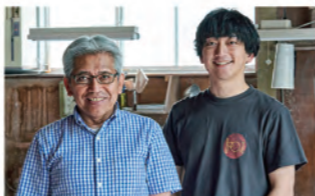
練り込み作家だった。水野家は代々続く陶芸の家。次男だった双鶴さんは、本家から独立すると赤津で自分の窯を開く。当時、作品の一部に取り入れる人はいたが、練り込みを専門とする作家は瀬戸にいなかった。もともと染付をしていた双鶴さんが練り込みを始めると、その仕事を見ていた教雄さんも日展など大きな展覧会に練り込み作品を出品するようになる。織部や黄瀬戸などの材料も父親の工房にあったが、曲面に現れる柄の規則性などに練り込みの魅力を感じたという。

## 3代が練り込みのそれぞれの魅力を引き継いで、その集大成がいまの智路の作品

教雄さんは、鶺鴒手や網代など伝統的な柄を得意としている。ギャラリーの壁にかかる鶏や風景の絵を練り込みで仕上げた皿も教雄さんの作品だ。いま、智路さんがメインとしている絵柄と同じ技。双鶴さんの練り込みの技術を教雄さんが学び、教雄さんの絵柄の技術をいま、智路さんが引き継いでいる。



粘土を切る道具「しっぴき」を使って上部をまっすぐ切ると、その表面にパンダ柄が現れる



父・教雄さんは1950年生まれ、名古屋造形芸術短期大学彫塑専攻科卒業。瀬戸市無形文化財保持者に認定。2004年~2007年度には瀬戸陶芸協会会長を務めた



教雄さんのデザイン画。方眼用紙にミリ単位の設定を書き込む

「私の時代は、展覧会に足を運んでいただけで、1週間でやっと数百人の人に見てもらえた。それがいまは1晩で何万人という数。すごいですね。早送り動画のアイデアは素晴らしいが、過程も見るとは興味深いものなんだと気づきました」と教雄さんも笑顔だ。作品展などで、何度も何度も説明した工程。いまでは、訪れる人のほとんどが練り込みを知っているという。

一晩で世界を駆け巡った智路さん発信の作陶動画  
智路さんは、現在33歳。教雄さんも学んだ名古屋造形芸術大学を卒業後、障がい者施設などで陶芸を教えた。その後、2018年4月からは

工房での仕事一筋。いま人気のパンダ柄を始めたのは、6年ほど前だ。「伝統的な柄が多い練り込み陶芸を、女性や若い人にも知ってもらいたかった」と智路さん。その方法として考えたのが、車や象、ドットや星などのイラスト。いまでは、「孫に」とシニアからの人気も高い。

練り込み陶芸は、1寸(約3ミリ)を最小とする棒を重ねて柄を仕上げると。根気と集中力と、計算を必要とする方法だ。どんな工程でつくるのか、以前は写真で説明していたが、どうにも伝わらない。そこで智路さんは、自身のSNSで動画の配信を試みる。これが当たり。「作り手にとっては当然の作業が、面白い！と受けたんです」と反響に驚きの表情を見せる二人。早送りなどに編集した動画への反響が高く、あつという間に世界中に拡散。智路さんのInstagramフォロワーは、現在約18万人。作品の写真、動画、趣味のスケートボードやダーツなど、あらゆる情報を発信している。